

石川依久子 著

## カサノリの世界 ミクロの映像で生命を見る

緑藻カサノリ研究の第一人者で、現在も理化学研究所において現役で研究活動を続けられている石川依久子先生による「カサノリの世界 - ミクロの映像で生命を見る -」が出版されました。石川依久子先生は、過去60年間にわたりカサノリに対して強い思い入れを持ち、機会あるごとに細胞生理学的・生態学的な研究を重ね、カサノリを通じて生命を追究してこられました。本書はその集大成です。

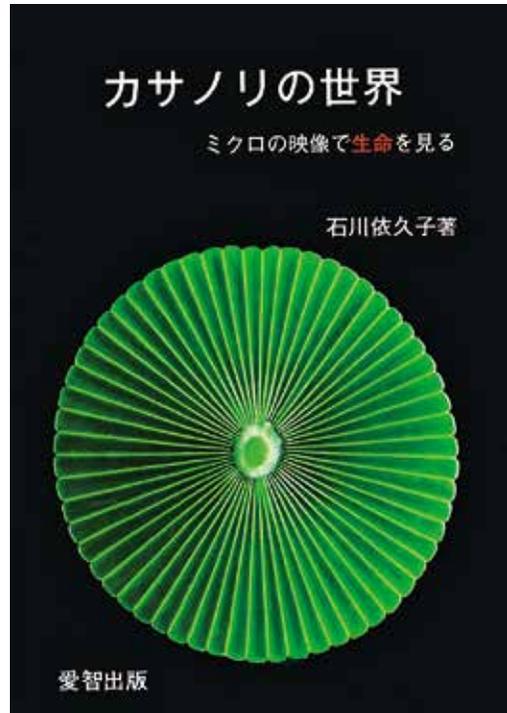
まず、本書の表紙に魅了されます(右図)。ため息がでるほどの美しさ。成熟期のカサノリ個体上部に形成される“カサ”のアップです。背景の黒の中央に、石灰化していない鮮やかな緑の“カサ”が浮かび上がっています。カサノリという生き物をご存じない方でも、どのような内容の本なのか興味をそそられることでしょう。

本書は、石川依久子先生が東大農学部の新崎先生の研究室でカサノリに出会うところから始まります。その後は、高校の教科書で有名な接ぎ木実験をおこなったヘマリング博士との出会い、近縁種ホソエガサとの出会い、生殖や形態形成の研究事例など、次々とカサノリ類ならではの興味深いお話が続きます。細かい描写により、石川依久子先生がフィールドから愛着込めて試料を採り、培養を続け、生命の美しさに感動しながら研究されてきたのが容易に想像することができます。

「カサノリの人工栽培に向けて」の章では、長い間の懸案事項であるカサノリの人工栽培が大変難しく、現在でもシスト休眠打破の決定的な条件が見いだせていない、という石川依久子先生の無念が垣間見られます。しかし石川依久子先生は、思うようにはいかない生き物から教授され、ある思いに至ります。生き物と謙虚に向き合うことの大切さを再認識させられます。

全体を通じて、カサノリ類に関する様々な写真がふんだんに含まれ、見るだけでも楽しくなります。つまり本書は、参考書であると同時にエッセイ集でもあり、カラー写真集でもあり、専門家以外の方にもわかりやすく、楽しく眺めてもらうことをモットーとしていることがうかがえます。

数年前、カサノリ研究に関するご助言を得ようと、カサノリに興味を持つ私の研究室の学生とともに何度か理研の研究室を訪問させていただいたことがあります。現代科学についてもお話いただき、市販の研究試料を入手して技術開発に急ぐ現代の科学に対してこれでいいのだろうかという懸念を持ち続けている、とおっしゃっていました。また先日も、私の研究室において、カサノリ、本書、現在の大学、科学社会など、様々なことについて熱い想いをご教授いただきました。生命の謎は無限に広がっていくけれど、この辺でちょっと、60



愛智出版  
A5版, 109ページ, 2014年9月,  
定価: 2,400円+税,  
ISBN: 978-4-87256-378-8

年間を振り返って本にまとめ、今の研究者たちに物を言いたいというのが本音のようです。

読み終えて、再度、表紙のカサノリを戻り見ます。美しいまでに均一な cap-ray がカサを形成しています。生き物とは、藻類とは、いかに不思議で魅力を秘めた存在なのか。純粋に藻類に心惹かれ、その美しさと不思議に謙虚に向かい合う、石川依久子先生のいわれる「自然の賛美から始まる自然科学」が今後も続くよう、願わずにはられません。カサノリが大好きな方、巨大単核生物に興味がある方だけでなく、若手研究者およびこれから研究者を目指す大学院生に読んでいただきたい一冊です。

(お茶の水女子大学自然応用科学系 畷田智)

=====  
本書の購入をご希望いただける方は以下のメールアドレス宛てに石川依久子先生に直接お申し込みください。著者割引で税込み2000円になるそうです。ishikuko@brain.riken.jp  
=====